

介護福祉領域における進路指導の実態

堀江 竜弥

学会等報告

介護福祉領域における進路指導の実態

堀江 竜弥

Tatsuya Horie : A Survey on Career Guidance in Care Welfare Area : Bulletin of Sendai University, 50 (1) : 31-36, September, 2018.

Key words : Care Welfare Career, Guidance
キーワード : 介護福祉, 進路指導, 実態調査

I. はじめに

介護福祉士が不足している現状が顕著である現在、厚生労働省を主体とし介護従事者人材確保対策事業が継続して行われ、イメージアップ戦略やキャリア支援など、様々な取り組みがなされている。2025年に向けて38万人が不足する統計から、この活動はさらに積極的になるものと予測される。2年課程、3年課程、4年課程の介護福祉士養成校では広報活動を積極的に行って介護に興味を抱いてもらう活動を実践しており、中には月2回のオープンキャンパス（以下、OC）や体験会を催すなど志願者確保に向けた活動が展開されている。研究者らは昨年度より宮城県介護従事者人材確保対策事業に参画し、DVDやパンフレットの配布、大学イベントに合わせたPR活動を行ってきた。しかし、年少人口の減少もあり、高校生の志願者確保は困難な現状にありながら、これまで介護福祉領域における効率的・効果的な広報活動が実践できていない可能性が考えられる。高校での進路決定は進路指導を担当する教員の関与が大きいことから、今回、進路に関する実態を明らかにすることとした。

II. 調査方法

調査対象は県内にある全日制・定時制の高等学校約102校を対象に調査した。調査は郵送法で、独自に作成したアンケート用紙を用い、返送用封筒での回収とした。調査内容は進路指導の実態（進路確認時期、進路決定時期、就職・進学セミナー時期、進路指導に関する認識5項目）、介護福祉領域における進路指導の実態13項目および介護福祉領域への進学・就職の実態、OC・体験会に関する認識・要望5項目と開催希望時期、仙台大学および健康福祉学科へのOC/体験会の参加者数、健康福祉学科の特徴に関する認識5項目、健康福祉学科で取得できる資格・免許の認識とした。返送を以て、調査に同意したとみなし、得られた情報を単純集計し、傾向を検討した。

III. 結果

調査用紙は102校に配布し、57校から回収（回収率55.9%）、全数を分析対象とした。進路確認は1年生、2年生とも4月に約6割の高校が実施し、10月に約4割、7月に約3割の高校が実施していた。3年生は4月に約8割の高校で実施し、次いで7月に5割であった。進路決定は1年

生ではどの時期でも1割に達せず、2年生では12月に1割程度の高校で決定していた。3年生は4月から8月にかけて決定し、特に7月で3割を超える高校で決定していた。進学・就職セミナーは1年生、2年生において6月、10月、12月、2月から3月にかけて実施している高校が2～3割程度であり、3年生においては4月から8月にかけて3～5割程度実施していた。学年別にみると1年生ではセミナーは10月、12月、2月から3月に多く、進路確認は4月、10月、7月の順に多い結果であった。2年生では1年生と同様に10月、12月、2月から3月にかけてセミナーが多いが6月にも多く、3月は4割弱実施していた。3年生ではセミナーは4月から8月にかけて実施、進路確認は4月と7月に実施している高校が多く、進路決定は7月に最も多く3割を超える結果であった。進路指導に関する現状では就職よりも進学を重視するかの問いに対し「そうだ」「まあそうだ」と回答した高校は6割、進学に学力のマッチングを重視するかの問いに「そうだ」「まあそうだ」と回答した高校は8割、進路指導に保護者の意向を尊重するかの問いに「そうだ」「まあそうだ」と回答した高校は9割を超える結果であった。進路指導に際しオープンキャンパス（以下、OC）や体験会の参加を勧めるかとの問いに「そうだ」「まあそうだ」と回答した高校はほとんどであった。

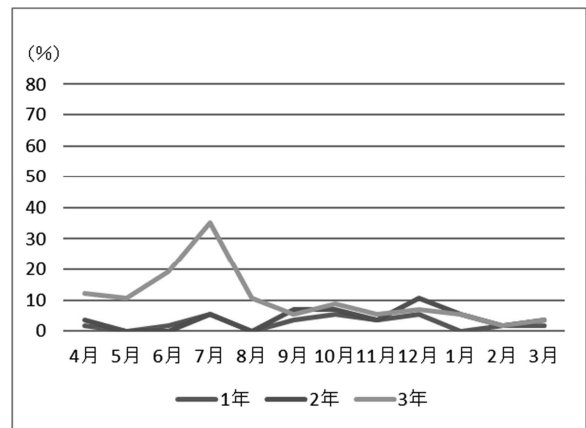


図2 進路決定時期（学年別）

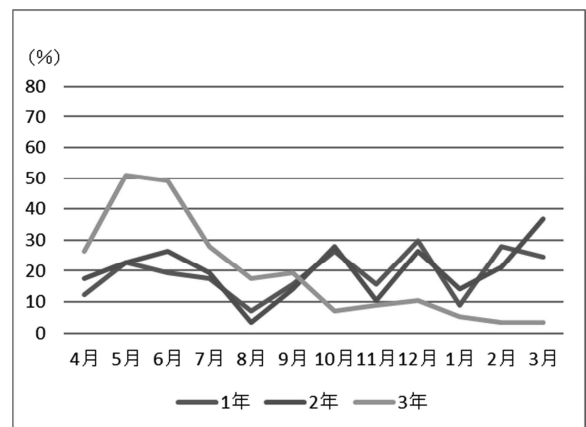


図3 進学・就職セミナー時期（学年別）

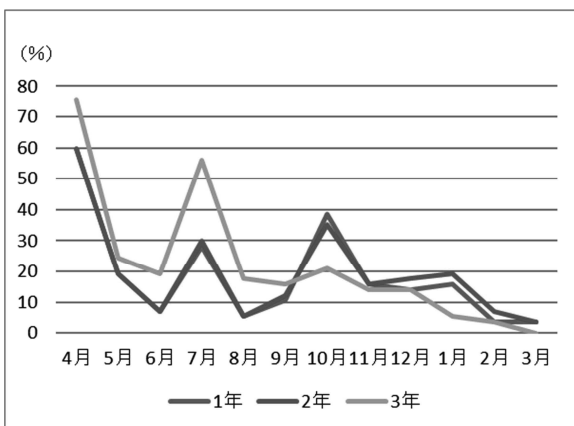


図1 進路確認時期（学年別）

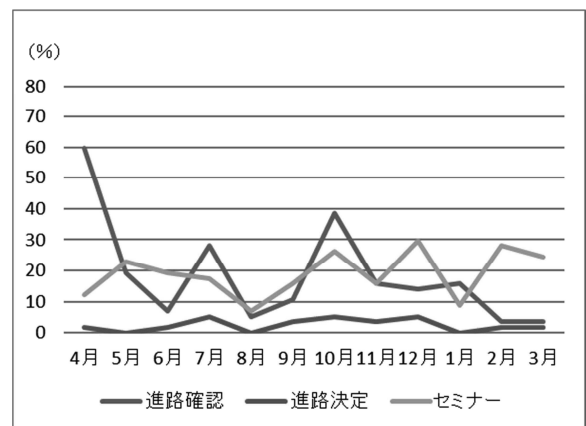


図4 進路確認 / 決定・セミナー（1年）

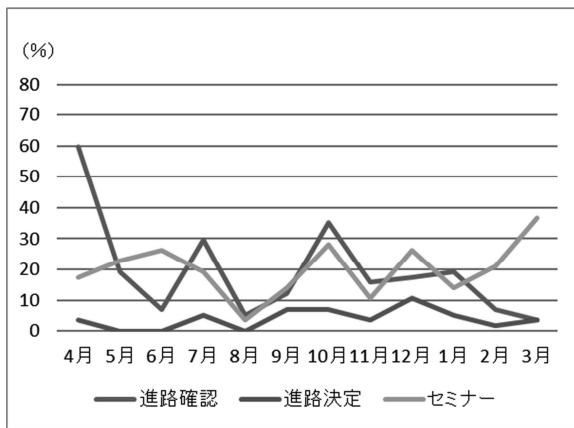


図5 進路確認/決定・セミナー（2年）

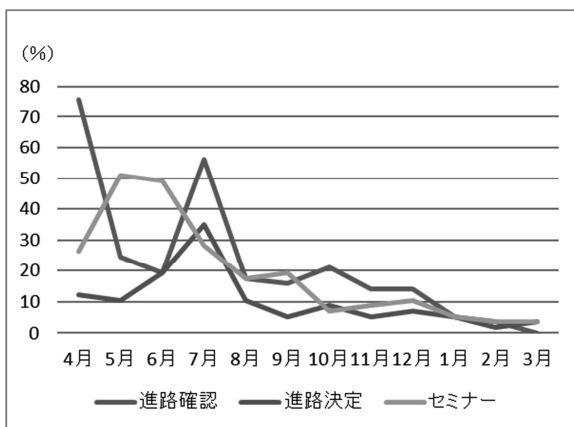


図6 進路確認/決定・セミナー（3年）

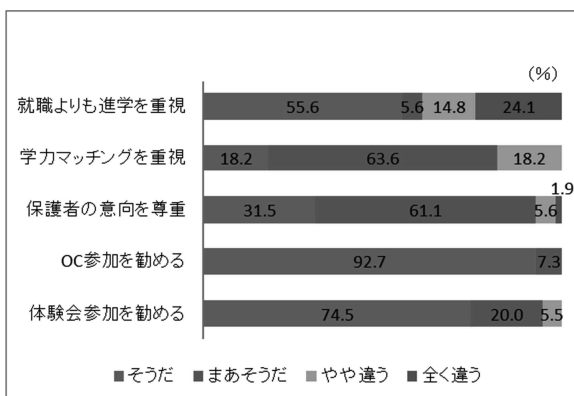


図7 進路指導の現状

介護福祉領域における進路指導の実態については、本人の意思を確認する、本人の意思を尊重するかとの問いにほとんどの高校が「そうだ」「まあそうだ」と回答した一方、本人より家族の意向を尊重するかとの問いには「そうだ」「まあそうだ」と回答したのは2割程度であった。また、進路に関して再考を指導するかとの問いに「そうだ」「まあそうだ」と回答した高校は2割に満たない結果であった。介護領域に関してOCや1日体験会の参加を勧めるかの問いにはほとんどの高校が「そうだ」「まあそうだ」と回答し、介護福祉領域以外に医療の領域や社会福祉の領域も勧めるかとの問いに「そうだ」「まあそうだ」と回答した高校は6割であった。進学よりも就職を勧めるかとの問いには1割の高校が「そうだ」「まあそうだ」と回答し、大学よりも専門学校を勧めるかとの問いに「そうだ」と回答した高校はなく、「まあそうだ」と回答したのは2割に満たない結果であった。介護社会的評価や介護の仕事を説明するかとの問いに「そうだ」「まあそうだ」と回答した高校は8割を超え、教員も介護の情報をするかとの問いには8割弱の高校が「そうだ」「まあそうだ」と回答した。進路指導に介護福祉領域を含めるかとの問いに「そうだ」「まあそうだ」と回答した高校は6割に満たない結果であった。介護福祉領域への就職、進学については平成28年度に就職をしたのは33校で平均 3.4 ± 3.4 名、進学したのは19校で平均 4.3 ± 4.6 名であった。調査時点で就職を希望または予定している実数では1・2年生は12校で平均 6.3 ± 8.3 名、3年生は29校で平均 4.2 ± 4.5 であり、進学を希望または予定している実数では1・2年生は15校で平均 4.8 ± 5.4 名、3年生は21校で平均 3.6 ± 4.3 名であった。

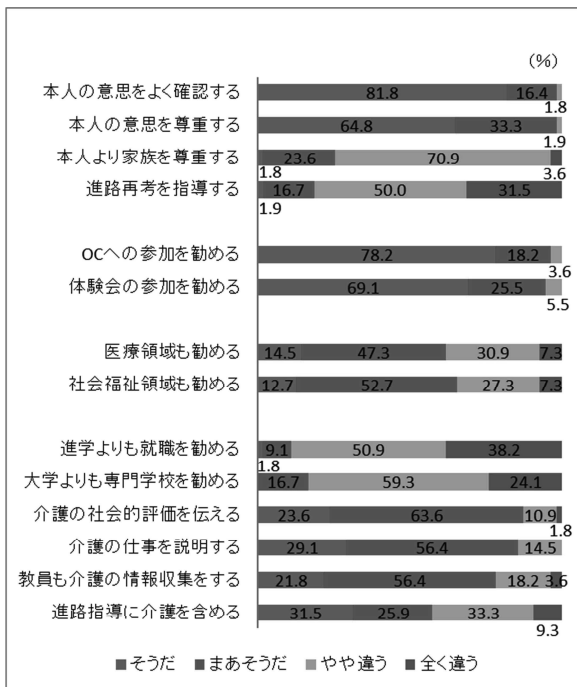


図8 介護福祉領域 進路指導の実態

を希望するかとの問いに「そうだ」「まあそうだ」と回答したのは9割以上であった。また、OCおよび体験会の開催時期について意向を尋ねたところ、OC・体験会いずれにおいても7月、8月に開催希望が6割～7割であり、以下3月が3割を超え、12月が2割程度であった。

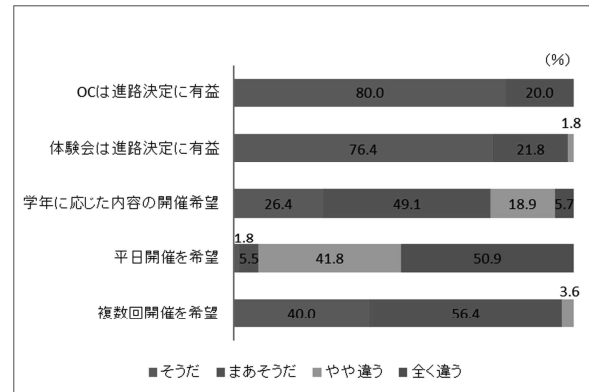


図10 OC/体験会の認識・意向

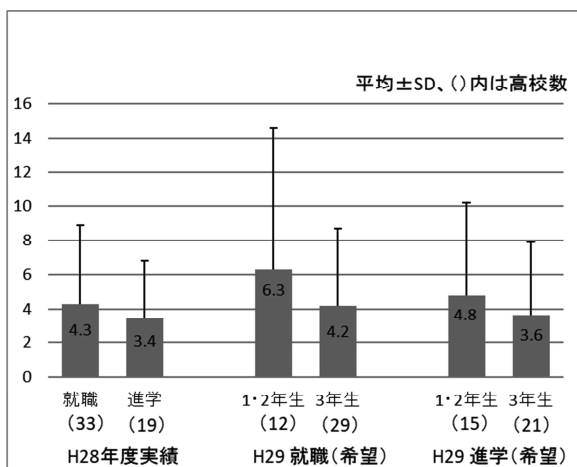


図9 介護領域への進学・就職

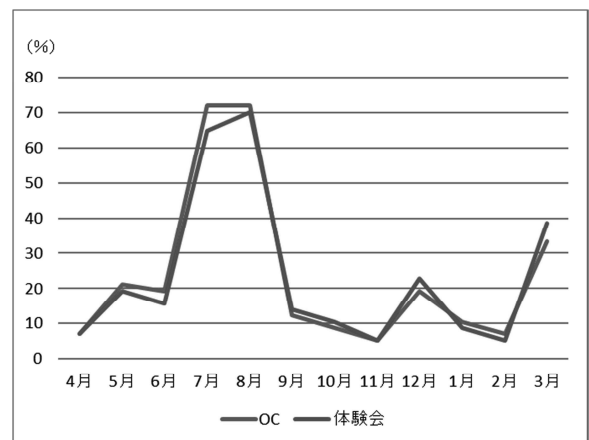


図11 OC/体験会の開催時期意向

OCおよび体験会の認識や意向を尋ね、OCや体験会は進路決定に有益かどうかとの問いに9割以上の高校が「そうだ」「まあそうだ」と回答し、学年に応じた内容での開催を希望するかとの問いに「そうだ」「まあそうだ」と回答したのは7割を超えていた。開催に関しては平日開催を希望するかとの問いに「そうだ」「まあそうだ」と回答したのは1割未満、複数回開催

IV. 考察

進路確認時期から高校では進路をどの学年でも定期的に確認し、特に新学期、夏季休暇前に多く、1年生・2年生では秋季に確認している割合が多いこと、進路決定は3年生の7月が最も多いことが明らかとなった。また、就職や進学セミナーは1・2年生で定期的に開催し、特に3年

生では1学期に多く実施していた。学年別における進路の確認・決定、セミナー時期にもあるように高校で進路セミナーを1年生および2年生で実施した際、進路について確認している結果であり、特に3年生の7月に多いのは高校総体が終了した後であると推察され、進路確認・決定は3年生の7月以降に減少していることから、この時期に最終的な進路決定がなされている可能性が考えられた。また、進路指導は就職よりも進学を重視している高校は半数、進学に学力とのマッチングを重視している高校が多い結果であった。調査対象は進学校だけでないことから、学生の進路事情を考慮しつつ、学力に応じた指導をしていることが考えられた。保護者の意向を尊重する回答が多いことから、進路の意思決定には保護者の関与、影響が大きいことが考えられた。進路指導ではOCや体験会を勧めている高校がほとんどであり、進路決定では学生の直接的参加が重要であると認識していることが考えられた。

介護福祉領域の進路指導では家族の意向より本人の意思をよく確認・尊重していること、再考を求めず、OCや体験会により直接的に学生が検討できるような指導をしていることが明らかとなった一方で、医療領域や社会福祉領域も併せて勧めていることも明らかとなった。進路は本人の意思が重要であり、意向に沿った対応をしている現状、意思決定に必要な情報収集をOCや体験会を通して積極的に勧めている現状が考えられた。しかし、介護福祉領域以外に他の領域も勧めている現状も明らかになり、様々な情報を提供している反面、介護福祉領域への選択をしにくくしている可能性も考えられた。介護の印象として給料を含めた待遇、労働環境の悪さが挙げられていることから、他関連領域も含めて情報提供された際に、介護福祉領域の正確な労働環境や待遇の実態を伝えることも必要であることが考えられた。また、介護福祉領域の指導では進学よりも就職を勧めず、専門学校を勧めていない現状が明らかとなり、学生の進学意思を尊重していることが考えられた。これらのことから学生の意思決定に必要な情報をOCや体験会で伝え、大学で学ぶ有用性を伝え

意思決定に積極的に関わることで、入学促進に向けた活動に寄与できる可能性が考えられた。介護領域の進学・就職の実態において、進学を希望する学生は1年生で1校あたり5名程度が3年生になるとやや減少し、そのままの推移で進学している現状が明らかになった。就職に関しては進学と同様な推移であり、1・2年生で希望している平均6名が3年生になると4名程度に減少したまま就職につながっていることが明らかになった。また、進学および就職を希望している学校数は1・2年生から3年生になると増加していることも明らかとなった。これは、何らかの情報提供により介護領域に興味を示した1年生・2年生が、進学・就職セミナー、OCや体験会をはじめとする情報収集の結果3年生になりやや減少しているものの、そのまま進学や就職につながっている可能性が考えられた。3年生は進学・就職の意思決定を行う時期にあるため、介護領域を志望する学生の確保には1年生・2年生へのアプローチが極めて重要であると考えられた。

OCや体験会について、OCや体験会は進路決定に有益であると回答した高校はほとんどであった。先述のように学生の進路決定は、高校内でのセミナー以外にも直接学生自身の目で見えて肌で感じさせることが重要であると認識していることが明らかとなった。また、開催内容としては学年に応じた内容での開催を多くが希望している一方で、平日開催は希望せず、複数回債を希望していることが明らかとなった。学べる環境や設備、将来取得できる資格、将来像は高校1年生と3年生とでも異なってくることが考えられるため、体験型のイベントや入試や保護者相談を含めたイベントなど、異なる企画を展開する必要性が考えられた。また、学生がOCや体験会に参加しやすいよう、休日の開催、複数の開催が必要と考えられた。開催時期の意向に関してはOC・体験会ともに同様の推移であり、7月・8月の夏季開催が最も多く、3月、12月の順に多い結果であった。高校生の長期休暇に合わせて教員も含め参加したい意向が考えられた。

V. まとめ

今回の調査により、進路決定には本人のみならず進路指導の教員、保護者の関与も考えられた。正確かつ魅力ある情報発信、高校生が参加

したくなる企画を検討し、高校のニーズを踏まえた広報活動の実践が重要であると考えられた。

（2018年 5月29日受付）
（2018年 7月3日受理）

